

## 北岳バットレス・第4尾根

日程：2010年7月17(土)～19日(月)

メンバー：L 斎藤、劔持(記)

お酒の席でのこと、「どこか行ってみたい岩ない?」。私は、いずれ行けたらいいなという思いで「バットレス」と答えると、予想に反して「じゃあ今年の夏行ってみようか」、ということになった。しかし6月に計画された岩トレは雨で一回しか行けず、代わりにジムに出かけただけ。リードは斎藤さんが全部してくれるとはいえ、まだ会に入って3ヶ月のこんな私でも大丈夫なのか不安な思いを抱いたまま、当日を迎えることになる。肝心の天気予報は雨マークが続き、沢に転進かと危ぶまれたが、直前になって3日間、晴晴晴に変わった。もう、行くしかない!

### 16日(金)

劔持宅を21時に出発し、夜叉神峠駐車場に0時到着。すでに結構車が停まっている。就寝。

### 17日(土)

4時起床。晴れ。5時半のバスに乗るつもりだったが、乗合タクシーに勧誘され、斎藤さんはイスなし席に格安で乗りこむ。広河原から二俣を目指す。大樺沢は雪解け・最近の大雨で増水し、一部登山道まで水が進入していた。大量の水流にそって雪渓からの冷気が流れこみ、おかげで涼しい登り。



【増水している大樺沢】

二俣で、荷物をデポして4尾根の取付までのルートを偵察しに出発。残雪は例年より多く、前爪アイゼンでbガリー大滝目指して登っていく。が、すでにバテバテな私の足取りは重く、ちっとも進まない。ロープを出すよう言われ、情けないと思いつつ、斎藤さんに持ってもらう。bガリー大滝の手前は雪渓の傾斜が急で、他パーティーはロープを出して登っていたので、その下で順番待ち&休憩。ここで、なんと斎藤さんのヘルメットがザックから滑落。カランカランと急斜面をどんどん転がって、あつという間に見えなくなってしまった。大ピンチ!とoriaあえず、bガリー大滝だけ登って戻ろう、ということになった。しかし1ピッチ目の途中で雨が降ってきたため、ここで中止。私は登らず、斎藤さんはそのまま懸垂でおりてきて、偵察終了。ヘルメットを探しながら雪渓を下ると、幸運にも見つけた。下りは尾根上を歩いたけど、かなり歩きにくい。雪渓の方が楽だと思った。

白根御池小屋はテントでいっぱい。あちこちで宴会が盛り上がっていた。こっちは、炊飯中のコッヘルをひっくり返す始末…。ついていないなあ。あやうくヘルメット敗退・ヤケド敗退するところだった。

夜は半月と満天の星空が美しい。願い事一個くらいなら叶いそう…。

18日(日)

2時起床、3時10分出発。すでに先行パーティーのヘッドが先に見える。結構混みそうだ。下からもどんどん登ってくる。けど、みんな軽アイゼンのため雪渓を避け尾根に消えていった。私たちは雪渓でゴボウ抜きし、列のだいぶ前についた。bガリー大滝では1時間ほど待ち。特に難しいところはなく、快適に登る。ただし落石は多い。終了点付近では特に小石が多くて気をつかう。



【bガリー大滝1ピッチ目】

cガリーまでは登山道みたいなトレイルを左にトラバースするはずが、途中で道を見失う。ジグザグに登ってはいけなかったらしい。で、岩がもろくてかなり登りにくいbガリーを落石を起こしながら詰めてしまい、切れ落ちた終了点まで出た。岩で支点をとり、cガリーの雪渓側に懸垂2回で下りた。このルートミスで3時間使ってしまう。



【懸垂地点から見た4尾根】

その後、トラバースして下部岩壁に到着。1ピッチ目はⅢ級クラック。けど難しく、斎藤さん曰く、Ⅴ級くらいあるそう。私は離陸すらかななかできず、後ろについていた別パーティーにアドバイスをもらってなんとか登れた。2ピッチ目はブッシュの中を右にトラバースしたあと左へ。一回切って、3ピッチ目を登ると、テラスになっていて、すぐ正面に赤ペンキで4と書かれた第四尾根の取付があった。この取付までが今回の核心だった。

この時点で13時20分。疲れもだいぶ出てしまっているが、とりあえず今日は行けるところまで行ってみよう、と登り始める。緊張で喉はカラカラだけど、このあたりからビバークも想定していたため水の残量が心配でちょっとずつしか飲めないのがつらかった。

1ピッチ目はクラック。後続パーティーに見守られながら、何とか登る。やっぱりクラックは苦手。3ピッチくらいを登り終えたところで、このままいけば今日中に抜けられるのでは、と思えるようになる。下部岩壁に比べればだいぶ技術的にやさしい。でも5ピッチ目のスラブにてこずる。最初のスタンスに足がどうしても届かない。また後続パーティーのアドバイスをいただき、残置ハーケンにヌンチャクを通してアブミにして登る。ありがたい限り。そしてマ

ツチ箱のピークへ。両側スパッと切れ落ちたり  
ツジを馬乗りみたいな格好でずりずり進む。楽  
しい。6ピッチ目、コル下へ垂壁を10m懸垂  
で下りる。最初は高度感があって怖かったけ  
ど、下り始めてしまえば怖くない。先におりて、  
斎藤さんが下りてくるのを見上げていたら、垂  
壁の割れ目に咲いていた一輪のミヤマキンバ  
イに目が止まる。こんなところに独りで……。偉  
いと思った。ここまでくればあとちょっと。ス  
ラブを垂壁に沿うようにして登り、8ピッチ目を  
難なく登ると、広いテラス、終了点に到着。や  
ったあ。18時を回ったところ。残り僅かの水も  
もう心配ないのでぐびぐび飲む。

周囲はきれいなお花畑。斎藤さんと握手し、  
装備を片づけてお花畑の中を稜線へ。もう体  
が重くてのろのろと稜線へ出ると、ちょうど日  
没間近。間もなく太陽が沈み、下界の夜景が  
輝き始めた頃、誰もいない北岳山頂についた。  
さっと写真だけ撮って、月明かりの下、ヘッデ  
ンの明かりを頼りに肩の小屋にたどりついた。  
既に17時間行動で、これ以上の歩行は危険  
と判断し、ここに素泊まりとした。小屋で食べ  
たうどんのおいしいこと。ここは最近流行りの  
抗菌シュラフが備えてあった。斎藤さんはリー  
ダーとしてずっと気を張っていたのだと思う。  
だいぶ疲れていたようで、一晩中うなっていて  
心配だった。

19日(月)

6時に起きる約束をしていたけど、「雲海が  
きれいだ」とかいう声で目が覚める。稜線上に  
泊まるのは久しぶりで、興味津津の私は4時  
半に起きて御来光を拝んだり、写真撮影を楽  
しんだ。気持ちの良い朝。でもさすがに飽き  
ると、あわただしい山小屋の端っでお茶を飲  
みながら登山者を見送ったりして、6時までの  
んびりする。やがて斎藤さんも起きてきて、行  
動食を食べて白根御池小屋に向かって下山。

あいかわらず眺望もお花畑も素晴らしい。今  
日は帰るだけなので、気楽にぶらぶらと下っ  
ていく。御池小屋でテントを回収し、広河原手  
前の支沢で水浴び。タオルをびしょびしょにし  
て首に巻く。米国ヨセミテで教わった涼み方で、  
多湿の日本ではイマイチな方法だけど、すご  
く暑いのでかなり気持ちよい。

広河原からは乗合タクシーで夜叉神峠まで  
移動。途中の芦安白根会館で汗を流し、「芦  
安入口」信号の手前左側にある「南プス食堂」  
でおなかを満たす。変な名前の食堂だけど、  
安くておいしい定食には二人とも大喜び。南  
アの帰りはここ、というくらいオススメ♪



【無事登頂&下山！広河原にて】

今回、アクシデントもあったけど、天気にも味  
方され、植物にも勇気をもらい、また周囲のクラ  
イマー、そして何より斎藤さんのおかげで無  
事に登ることができた。

また、出発前にアドバイスや励ましをくれた  
山友会の先輩方。このうち一つでも欠けてい  
たら登れなかったと思う。つらい時、みんなの  
顔が浮かんで来て、頑張れた。

私をとりまく全てに、大感謝☆

今度はリードで登れれば、と思う。

コースタイム:

17日

6:00 広河原～8:30 二俣～13:00bガリ  
一大滝～15:30 二俣～16:00 白根御池  
小屋

18日

3:00 白根御池小屋～5:20bガリ一大滝～  
10:30下部岩壁取付～13:20第4尾根取  
付～18:00終了点～19:15北岳山頂～  
20:00 肩の小屋

19日

6:45 肩の小屋～8:05白根御池小屋～  
10:45 広河原



【キタダケソウに似ているけど、ハクサンイチゲ】